

第2回北上市政策評価委員会会議録（要旨）

【行政評価検証専門部会】

日 時	平成23年9月1日（木）午後2時～5時
場 所	北上市市民交流プラザ
出席者	(1)委員 4名 佐藤徹部会長、岩淵公二委員、西出順郎委員、和田明子委員__（高樋さち子委員は欠席） (2)事務局 (3)担当部課職員
傍聴者	1名

1 議題

- (1) 担当部からの内部評価シート説明
- (2) 質疑応答

	対象案件
1	経営改革（公の施設の見直し）の考え方について
2	夏油保養温泉専用水道の対応について
3	施策①高齢者が活躍できる場の確保について

2 会議の概要及び主な意見等

各案件について、担当部から内部評価シートにもとづき説明を行い、質疑応答を行った。

(1) 経営改革（公の施設の見直し）の考え方について

経営改革の経緯、施設見直しの方向性などについて確認を行った。

[主な意見等]

- ・（評価のための）議論の持ち方、評価の視点をどのようにしたらいいのかが分からない。「市民の意見」とあるが市民にもいろいろある。
- ・（公の施設の見直しの）必要性は分かるが、市側の事情が出すぎているように感じる。個々の施設の事情もあることから、一概に（施設管理の）公平性だけでは判断できないのではないかと。
- ・市の考えを地域住民がどこまで理解しているのかが評価シートからは見えてこない。これまでの協議の経緯が分かれば評価しやすい。
- ・段階的移管など、一つの方向性の中に複数の手法の選択肢があってもいいので

はないか。

- ・地域住民の理解を得るためには、施設管理の公平性だけでなく、サービス・利便性の公平性の観点も必要ではないか。

- ・地域と協働で管理するという考え方があってもいいのではないか。地域づくりの観点からも見ることはできるのではないか。

- ・方向性の検討の中で、個々の背景やこれまでの市の取り組みが分かれば評価しやすいのではないか。

(2) 夏油保養温泉専用水道の対応について

専用水道の経緯、施設整備の必要性、管理の方向性などについて確認を行った。

[主な意見等]

- ・経営主体・施設整備の選択肢がある中で、市の観光施策上の位置づけなど、公平性だけでは測れない事情が実際あるのであれば、それらの情報を整理した上で市としてどういう選択をするのがベストなのかという議論の方向性がいいのではないか。

- ・全市でのコスト・便益が分からないと判断できない。

- ・施設整備に係る費用の一部を補助金で交付するなど、方法論として他の選択肢があってもいいのではないか。

- ・特定の事業者が便益を受ける性質上、公平性の観点からどうなのかという視点は必要ではないか。

(3) 施策①高齢者が活躍できる場の確保について

主要事業の実施状況、高齢者施策の方向性などについて確認を行った。

[主な意見等]

- ・市としてどういう課題があると考えているのかが見えてこないと現在の事務事業の構成が課題解決に有効かどうかを判断できない。課題をもう少し明確にした方がいい。

- ・現状を見ると、成果指標の改善に有効な事務事業の構成になっていないし、事業の内容も補助にとどまっていて、成果指標や外部要因の改善につながる内容になっていない。

- ・老人クラブに加入しないで地域活動をしている人との公平性や、工芸、民芸、陶芸教室と他の生涯学習講座との公平性など、全体的な公平性の視点も重要ではないか。

(4) その他（評価のとりまとめの方法について）

[主な意見等]

・外部評価シートの全てを書き込むのは難しい。内部評価シートの書き込みが不足している部分もあるし、議論の時間も足りない。評価に必要な情報が全て揃っていない現状では、市の方向性を評価するのは困難。